

広島中央警察署本通交番庁舎新築工事に伴う基本設計及び実施設計に係る公募型建築プロポーザル

実施結果総集編

広島中央警察署本通交番庁舎新築工事に伴う基本設計及び実施設計に係る公募型建築プロポーザルに係る審議の結果について

1 特定結果

次のとおり、特定者及び次点者を特定しました。

特定者	南俊允建築設計事務所 (東京都杉並区阿佐ヶ谷北 6-21-24-106)
次点者	株式会社近藤哲雄建築設計事務所 (東京都目黒区原町 2-24-2 1F)

2 講評

審査部会長のコメント

交番という難しい課題に対して、全国から79もの質の高い提案が寄せられたのは嬉しい驚きでした。応募された全ての方々に深く感謝致します。最終案はどれもが、建築的想像力の幅広さを感じさせてくれる素晴らしいものばかりでした。白熱した審査の過程は、以下の委員会報告をご覧ください。

選出案は、この場所の交番の持つ可能性を極めてチャレンジングに建築化しようとする力強い提案です。今後、多くの関係者の方々のご協力を頂きながら、設計者が真摯な態度でこの案を昇華させ、世界に注目される素晴らしい交番が実現することを心から願います。

○ プロポーザルの概要

このプロポーザルは、昭和44年に建築された現在の本通交番の老朽が進んでいることから、長年親しまれた現在地での建て替え整備を進めるため、技術力や創造力はもとより、柔軟な発想力にも優れた設計者を選定するために実施されました。

「親しみやすさと力強さを備えた機能的な施設づくり」について、「周辺環境と調和した良好な景観の形成に資する魅力ある施設づくり」についての2つの評価テーマを設定し、地域の安全・安心の要として、交番の役割を最大限に発揮させる高い機能性はもとより、周辺環境と調和をはかりつつ、良好な景観形成に資する魅力ある交番の提案を求めました。

○ 1次審査概要

審査は、まず第1段階として各委員79者の簡易提案書等の自身の評価を再確認した上で、各委員が10者を投票して集計しました。その結果は下記のとおりとなりました。

獲得票数	獲得者数
3票	5者
2票	8者
1票	19者
0票	47者
	合計 79者

次に第2段階として、2票以上を獲得した13者は議論対象として残し、残念ながら0票の提案は議論の上、次のステップへは進まないこととした上で、1票を獲得した者については、投票した委員が理由等を説明し、他委員の意見を参考に議論を行いました。議論の結果、1票獲得者のうち5者が議論対象として残り、合計18者が次のステップに進みました。

第3段階として、あらためて各委員が18者の提案を精査した後、8者の提案について、平面計画やファサード等、計画が類似するものを分類分けし、それぞれの提案の特徴を精査し絞り込みを行い、技術提案書の提出候補者の6者を決定しました。その後、技術提案に向けての留意事項等を候補者へ通知する文面の決定を行いました。

○ 2次審査概要

技術提案書に基づき、1者当たり発表10分・質疑応答15分の公開ヒアリング審査を行いました。その後、審査部会を開催し、技術提案書の内容及びプレゼンテーションや質疑応答などを踏まえて、審議を行いました。具体的には、①まず各審査委員がプレゼンテーション・ヒアリングを終えての各提案についての感想を述べた後、議論の対象に残したいと考える提案の参考とするため、予備投票として審査委員5名が2票ずつ投じました。

①参考とするための予備投票結果

提案者名（発表順）		予備投票結果
1	株式会社高橋一平建築事務所	1
2	株式会社近藤哲雄建築設計事務所	4
3	GRIND ARCHITECTS	0
4	南俊允建築設計事務所	1
5	大旗連合建築事務所	2
6	アライイリエアーキテクト	2

②その後、最も多い4票を獲得した株式会社近藤哲雄建築設計事務所を議論の対象に残す第1候補とした上で、1票、2票を獲得した4者の提案について投票結果を踏まえて再度議論を行い、次のとおり議論の対象に残す案を次の2者の提案に決定しました。

②議論の対象に進んだ提案者

提案者名（発表順）
株式会社近藤哲雄建築設計事務所
南俊允建築設計事務所

③その後、上記2者の提案について更に議論を深めたのち、審査部会の総意として特定者として南俊允建築設計事務所、次点者として、株式会社近藤哲雄建築設計事務所に決定しました。

○ 各提案の講評

特定者の南俊允建築設計事務所は、プライバシー性の高い諸室をボックス状の部屋として随所に配置するとともに、周囲の建物ボリュームを考慮した屋根が、それを囲みつつ光を屋内に導き入れる魅力的な提案である。柱と屋根が作り出す力強い架構と透明感ある外観は、市民に親しまれる交番としての象徴性、ならびに街に対する空間性

の提示を期待できるものとして評価された。特定にあたっては、各委員による厳しい議論を経て、警察官が日々の勤務を遂行するうえで必要となる様々な条件についても調整が可能な範囲であることを確認した。

この提案は、意見交換の後に参考として行った予備投票では、1票の獲得票数であった。本委員会では、審査に先立つ打ち合わせにおいて、専門性の異なる委員が集まって多面的な議論を経ながら最良の結果に至るためには、投票は援用するが、十分な議論を尽くす姿勢は極力堅持する、という原則を確認済みであった。実際の議論では、本提案に投票していない多くの審査委員から、一票を投じるには至ってはいないが、空間的な可能性については高く評価しており、ぜひ議論に残したいという声が多いことを鑑み、次点となった案とともに最終段階での候補に残すこととした。また、公開プレゼンテーションとその後の質疑応答においても、本提案者は、真摯かつコミュニケーションタイプな姿勢を示しており、本事業の今後の展開において、円滑な意思疎通が確保出来るのではないかとこの点も評価された。

こうした審査委員団による長時間の真摯な議論を介して、公共事業としての合理性をある範囲で担保しながら、都市内における公共的機能の表象といった現代社会に求められる有用な提示を含む本提案の意図が、広島型プロポーザルが有している趣旨にも合致することが確認された形である。

もちろん、現提案は、通常の整形の建築物とは異なる平面形を有し、立面においても比較的大きなボリュームで施工コストの管理における課題、さらには守秘性の求められる勤務の性格と見通しが利く吹き抜けとのバランスなど提案を今後深化させる上での懸念が全くない訳でない。関係各位の努力は引き続き必要とされていることを申し添えておきたい。

次点者の株式会社近藤哲雄建築設計事務所の提案は、整形で機能的な平面計画に加え、前面の土間空間を含んだ象徴的な外観が特徴的な成熟した提案であった。事務室の広さ、コミュニティ室の位置、階段、明確なセキュリティラインの設定等、機能性においてもイメージしやすく、参考として行った予備投票でも最多の4票を獲得している。しかし、その一方で、コンセプトである象徴的な土間空間が、通常の交番と代わり映えない空間となる可能性を有していることに対する懸念を最後まで払拭することができず、惜しくも次点に留まることとなった。しかしながら、極めて僅差の評定であったことは強調しておきたい。

株式会社高橋一平建築事務所の提案は、屋内の諸室の上にかかる特徴的な覆いによって象徴的な空間の広がり確保し、都市に対して新しい交番の姿を提示するものであった。安心感のあるその外観から、治安を守る警察官が働いているメッセージが伝わりやすいという評価を得た他、公開プレゼンテーションと質疑における応答性についても、評価がなされた。しかしながらそれらの指摘も、通り土間及び2階の廊下の開放性に関するセキュリティ、温熱環境維持のためのランニングコストといった課題を覆すまでには至らなかった。

GRIND ARCHITECTSの提案は、予備投票においては、獲得票はなかったものの、軒を下げつつ住宅のようなヒューマンスケールに対応させた外観と、機能的な平面配置及び坪庭を用いた光を取り込んだ空間提案において、快適な執務環境を作り出さうとする合理性の高い提案であることが、改めて確認された。一方、公開プレゼンテーションとその後の質疑応答において、歴史性や街並みへの配慮といったこの案が持つ可能性について、設計者自身があまりこだわりを持っていないことが判明し、案の発展を妨げるのではないかとこの指摘が出され、最終段階に残ることができなかった。

大旗連合建築事務所の提案は、広島市中心市街地に良い影響を与え得る特徴的な屋内空間を持ちながらも、セキュリティ性を求められる諸室を適切に2階に配置する等、提案性と機能性のバランスの取れた案として評価された。しかしながら、都市における「溪谷」という概念がなぜここに導入されなければならないかを、公開プレゼンテーションと質疑応答において、提案者が自らの言葉で説明することが出来ず、最終的な議論に残ることが出来なかった。

アライイリエアーキテクツの提案は、諸室をボックス化してセキュリティ性を高めつつ、中層にテラスを組み合わせた都市に開かれた空間を確保した魅力的な提案である。構造的にも丁寧な統合が行われおり、提案の練度については高い評価がなされた。その一方、テラスの広報的活用など、提案の現実性とその意義についての懸念を払拭するには至らなかった。僅差で最終段階への移行を逃すこととなった。

最終的に一案に絞りこむ結果となったが、二次審査に進んだ提案、一次審査に提出された提案は、どれも知恵を絞った提案性の高い作品で、その評価は非常に難しい作業となった。ここに記して、関係各位に深い謝意を示したい。

3 審議経過等

(1) 審議内容

ア 評価基準，評価要領の策定

「親しみやすさと力強さを備えた機能的な施設づくり」について、「周辺環境と調和した良好な景観の形成に資する魅力ある施設づくり」についての2つの評価テーマを含め、評価基準及び評価要領等を策定

イ 技術提案書の提出者の選定（1次審査）

参加表明書及び簡易提案書の提出者（79者）について、技術提案書の提出者を選定するための基準による評価を行い、技術提案書の提出者（6者）を選定

ウ 技術提案書の特定（2次審査）

提出された技術提案書（6者）について、公開プレゼンテーション・ヒアリングを実施した上で、2次審査の評価基準による評価を行い、特定者及び次点者各1者を特定

[審議経過]

令和元年10月17日	審査部会（第1回）	評価基準，評価要領の策定
令和元年10月25日	公募型建築プロポーザル公示	
令和元年12月4日	参加表明書等の提出期限	79者提出
令和元年12月20日	審査部会（第2回）	技術提案書の提出者の選定（6者）
令和2年12月26日	技術提案書の提出要請	
令和2年1月21日	技術提案書の提出期限	6者提出
令和2年2月7日	審査部会（第3回）	公開ヒアリング，特定者の決定

(2) 審査部会構成

[審査部会委員（順不同・敬称略）]

委員区分	氏名	所属等
部会長	ひらた あきひさ 平田 晃久	平田晃久建築設計事務所主宰／京都大学 教授
委員	おののだ やすあき 小野田 泰明	東北大学大学院 教授
委員	すみくら ひであき 角倉 英明	広島大学大学院 准教授
委員	ともくに まさあき 友国 雅章	広島県警察本部総務部施設課長
委員	まとば ひろあき 的場 弘明	広島県土木建築局建築技術部長
オブザーバー	おかだ こうじ 岡田 浩二	広島県地域政策局都市圏魅力づくり推進課長

特定者 南俊允建築設計事務所

HIROSHIMA Pilotis

交際の活動やまちの人たちを受け入れる「大きな屋根の下の自由な空間」と「力強い柱」を中心に、広島のみならず人の心よりどころとなる生命力溢れる「大きな水々の下のような交差」を提案します。

平和を願うまち広島にふさわしい生命力溢れる建築をつくる
広島から志を掲げて立ち上がり、今も歴史の重みと平和への願い（願い）を背負い、ここに、平和を願うまち広島らしい生命力溢れる建築をつくる「願い」を込めてきました。この交差をこのコンセプトを軸に実現します。

- 1 交差を人々が集うプラットフォームと捉え、様々な層の人々の気配が感じられる賑わいの建築をつくりたい。
- 2 街に対して背で向てるのではなく、大きな屋根にまわり「人々の集り所」となった開放的な空間をつくりたい。
- 3 「力強い屋根」と「更新可能なレイアウト」により「時代を越え100年後もたつ続ける建築」をつくりたい。

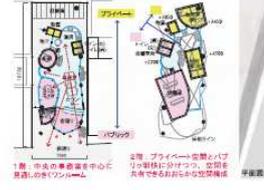


「力強い柱」と「大きな屋根とその下の自由な空間」

広島は歴史・文化が持つ「強さ」とまちに溶（A,B,C,D,E）け込む「弱さ」が共存した生命力溢れる交差

A 広島にしかない空間を継承し発展させます
私たちは広島をまちを歩かざるをえない「力強い柱」が大きな屋根とその下の自由な空間」に広島にしかない「居場所」を創りました。これを継承した交差をつくりたい。

B 多様な居場所をもつシンプルで明快な平面計画・動線
大きな屋根下のプラットフォームの空間は、まちに開かれた通りから奥に行けば多様な居場所が確保される空間で明快な空間になります。
プラットフォーム性の高い「居場所」は現代社会として、その開かれた多様な居場所が求められるように配置計画します。



C 100年後もたつ続ける時を越える建築と仕組み

大きな屋根がつくる「人々の集り所」とまちの活動と連続する「通りの延長としての交差」(A,B,C,F,G)
人の気配が感じられる空間(階層)により、高齢者や子どもも入りやすく集まりやすい空間をつくりたい。まちに開かれた付加価値を高め、広島らしい「ロイヤル空間」の「通りの延長」として「誰もが気配に立ち寄ることができる」という真の「居場所」の創出を実現します。

D 力強さと耐久性・可変性を兼ね備えた構造計画
多用途・多目的性・多機能性を兼ね備えた構造計画。多用途・多目的性・多機能性を兼ね備えた構造計画。多用途・多目的性・多機能性を兼ね備えた構造計画。

E 自然エネルギーを取り込む呼吸する建築
大規模な自然エネルギーを取り込む呼吸する建築。大規模な自然エネルギーを取り込む呼吸する建築。大規模な自然エネルギーを取り込む呼吸する建築。

F 周辺環境との調和と活動が溢る交差

まちに開かれた開放的な外観により生まれる親しみやすさ
地域に開かれた明るい多様な屋根下空間。通りからも認識しやすい特徴的な軒先。まちの中心部の賑わいを創出する「ロイヤル空間」の創出を実現します。

G まちが開かれた開放的な外観により生まれる親しみやすさ
地域に開かれた明るい多様な屋根下空間。通りからも認識しやすい特徴的な軒先。まちの中心部の賑わいを創出する「ロイヤル空間」の創出を実現します。

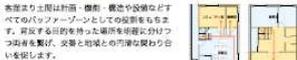


【別】に業務する設計上の取組事項	【概算】概算
概算上乗金	6,300 円
交差付金	1,000 円
交差付金(不特定多数利用)	1,000 円
概算上乗金(不特定多数利用)	6,300 円



テーマ1 親しみやすさと力強さを備えた機能的な施設づくり

交番と地域をつなげるパワーステーション
 近年の都市の発展に伴って、一般の市民が利用する公共施設やサービスセンターの確保が求められる重要性が顕著に高まっています。日常的に一般の市民が利用するコミュニティセンターや福祉施設は、地域を活性化させる役割を担っています。また、地域を活性化させる役割を担っています。また、地域を活性化させる役割を担っています。



公共性と安心なコミュニティ
 親しみやすさと力強さを備えた機能的な施設づくり。公共性と安心なコミュニティの確保が重要です。



柔軟に対応できる平面計画
 柔軟に対応できる平面計画。多様な用途に対応可能な設計が特徴です。

テーマ2 周辺環境と調和した良好な景観の形成に資する魅力ある施設づくり

周辺環境との調和
 周辺環境との調和を図るための設計。景観の形成に資する魅力ある施設づくりを目指します。



景観の広場、開く灯籠
 景観の広場、開く灯籠。地域の魅力を高めるための設計要素です。



多様な魅力を受け入れる新しい交番のシンボル
 多様な魅力を受け入れる新しい交番のシンボル。地域の活性化に貢献する設計です。



まちぐるみの安全な環境づくり
 まちぐるみの安全な環境づくり。地域の安全と安心を確保するための設計です。



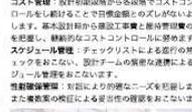
地域とつながる 土間のある交番

地域の人が気軽に立ち寄りやすい空間としての土間をもち交番を提案します。親しみやすさと力強さを備えた機能的な施設づくり。公共性と安心なコミュニティの確保が重要です。



項目	金額(円)	用途	面積(m ²)
建築費	5,000,000	建築費	25
設備費	1,000,000	設備費	11
設計費	500,000	設計費	5
その他	1,000,000	その他	11
総計	7,500,000	総計	52

図表1 概算工事費



コスト削減の取り組み
 コスト削減の取り組み。環境に優しい材料や施工方法の採用が特徴です。



自然エネルギーを利用した設備計画
 自然エネルギーを利用した設備計画。環境に優しい設備の採用が特徴です。



女性や子どもにも利用しやすい交番
 女性や子どもにも利用しやすい交番。安全で安心な環境の確保が特徴です。



柔軟に対応できる平面計画
 柔軟に対応できる平面計画。多様な用途に対応可能な設計が特徴です。



公共性と安心なコミュニティ
 公共性と安心なコミュニティの確保が重要です。



まちぐるみの安全な環境づくり
 まちぐるみの安全な環境づくり。地域の安全と安心を確保するための設計です。



図表2 概算工事費

コスト管理
 コスト管理。設計段階からコストを厳格に管理し、予算内での完成を目指します。

スケジュール管理
 スケジュール管理。プロジェクトの進捗を厳格に管理し、納期を守ることを目指します。

性能評価
 性能評価。建築性能の評価を行い、品質の向上を図ります。

環境配慮
 環境配慮。環境に優しい材料や施工方法の採用が特徴です。

アクセシビリティ
 アクセシビリティ。高齢者や障害者にも利用しやすい環境の確保が特徴です。

コミュニティ
 コミュニティ。地域の活性化に貢献する設計が特徴です。

安全
 安全。地域の安全と安心を確保するための設計が特徴です。

景観
 景観。地域の魅力を高めるための設計が特徴です。

エネルギー
 エネルギー。環境に優しい設備の採用が特徴です。

多機能
 多機能。多様な用途に対応可能な設計が特徴です。

柔軟
 柔軟。柔軟に対応できる平面計画が特徴です。

安心
 安心。公共性と安心なコミュニティの確保が特徴です。

安全
 安全。まちぐるみの安全な環境づくりが特徴です。

景観
 景観。景観の広場、開く灯籠が特徴です。

多機能
 多機能。多様な用途に対応可能な設計が特徴です。

広島中央警察署本通交番審査部会第2回審査会(1次審査)概要
(本通交番プロポーザル)

令和元年12月20日
広島県立総合体育館小会議室
14:15~18:00

1 選定の流れ

- (1) 各委員が1次審査の評価基準に基づき個別審査を再確認(約40分)
- (2) 各委員が、議論の対象として残したい(二次に残したい)と考える10者に投票。
- (3) 票が入っていない提案を議論から除いてよいかについて確認。
- (4) 1票のみの提案について議論に残すかどうかについての意見交換。
- (5) 2票以上を獲得した提案及び、1票のみで議論で残った全18者を議論で6者に絞り込む。
- (6) 技術提案書の提出候補者へ通知内容に関する議論と文面の決定(技術提案に向けての留意事項)。

2 審査概要(番号は審査番号で表記)

(1) 議論の対象として残すための投票結果(一次)

得票数	審査番号	提案合計
3票	8, 20, 22, 47, 57	5提案
2票	12, 28, 32, 41, 59, 65, 73, 77	8提案
1票	7, 16, 18, 19, 21, 27, 40, 42, 44, 45, 46, 48, 50, 55, 58, 67, 68, 72, 79	19提案
0票	上記以外	47提案

(2) 1票のみの提案について議論の対象に残すかどうかについての意見交換

ア 1票のみ得票の提案で議論に進めることとなった提案(全5者)

16, 21, 27, 45, 46

イ 議論の対象に進んだ作品(全18者)

3票(5者) 8, 20, 22, 47, 57

2票(8者) 12, 28, 32, 41, 59, 65, 73, 77

1票(5者) 16, 21, 27, 45, 46

(3) プランの比較による絞り込み(概要)

ア 8と28(カウンターを独立), 45(全体を都市に表出)の比較

カウンターと事務室の連関確保を考えると発展に課題があり、タイプとしては異なるが都市への表出の観点では45が主張に優位性がある。

8→×, 28→×, **45→○**

イ 16と47の比較(大きなボリュームで覆うタイプ)

象徴性では47に優位性あり。

16→×, **47→○**

- ウ 32と59と73の比較（断面にガーデンを挿入するタイプ）
32は計画的に挑戦的だが事務室の使い勝手で発展が難しい。73はガーデンの開放についての懸念有59は都市への現れへの面において軽快さもあり期待できる。
32→×, 59→○, 73→×
- エ 21と45の比較（ガラスファサードで内部が吹き抜けているタイプ）
どちらを残すか拮抗。どちらも今後の展開の可能性について他案より優位性あるため両者選定。
21→○, 45→○
- オ 22（前面にバッファ空間を設けるタイプ）
表象性があり、計画的にも無理が少ない。投票してない委員も僅差で推していたことが判明。
22→○
- カ 21と77比較（バッファ空間を引き込むタイプ）
コンクリートの77よりも21の方が既視感が少なく展開の可能性も存在。全員が強く推す22とも近似する部分もあるため一案のみの選出。
21→○, 77→×
- キ 46と57の比較（軒を深くしてヒューマンスケールに対応しているタイプ）
46の土間や坪庭の使い方に可能性を期待。57は計画的には無理がないが表象性に課題。
46→○, 57→×
- ク その他強く推されない等での落選
12→× 平面プランは評価できるが、ヴォールトの効果については懸念。
20→× あり得る構成だが、ファサードが近隣建物と類似し固い懸念。
27→× 平面プランは評価。門型のフレームの効果について懸念。
41→× 平面プランは評価。庇で表象を確保する成熟した案だが支持広がらず。
65→× 間口の確保が十分でなく、壁の効果についても懸念。

(4) 選定結果

	審査番号	提案合計
選定者	21, 22, 45, 46, 47, 59	6者

(5) 選定者名簿

受付番号	審査番号	提出者
41	21	大旗連合建築設計株式会社
67	22	株式会社近藤哲雄建築設計事務所
52	45	南俊允建築設計事務所
27	46	GRIND ARCHITECTS
23	47	株式会社高橋一平建築事務所
16	59	アリエイリエアーキテクト

3 審査番号対応表

受付番号	審査番号
1	27
2	20
3	2
4	13
5	8
6	3
7	5
8	58
9	17
10	62
11	42
12	79
13	66
14	33
15	41
16	59
17	31
18	72
19	14
20	70
21	77
22	65
23	47
24	50
25	69
26	23
27	46
28	48
29	24
30	29

受付番号	審査番号
31	32
32	39
33	55
34	74
35	11
36	6
37	19
38	25
39	53
40	26
41	21
42	9
43	68
44	73
45	35
46	56
47	63
48	37
49	10
50	51
51	15
52	45
53	7
54	36
55	28
56	1
57	4
58	61
59	75
60	57

受付番号	審査番号
61	67
62	60
63	49
64	71
65	43
66	40
67	22
68	12
69	54
70	30
71	76
72	52
73	44
74	78
75	34
76	38
77	16
78	64
79	18

様式6 業務実施方針及び手法等

(1) 業務の実施方針、取り組み体制、設計チームの特徴

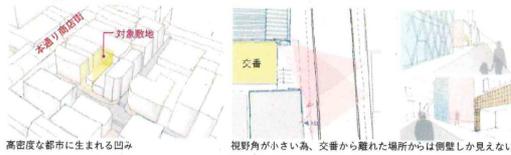
円滑かつ迅速、行動力と柔軟性を備えた業務遂行体制

意欲的で行動力のある若手担当者（平均32.8歳）で構成し、丁寧なヒアリングで発注者の思いをくみ取る柔軟性も持ち合わせた体制です。また、市内に事務所があり、設備・構造担当者が社内にいる為、様々な事案に対して迅速な対応が可能です。10年を超える事務所の地勢・文化・歴史を含めた豊富な経験を融合し、高い実行力を担保します。

高密度な都市の「凹み」の課題

現在の交番は密実な都市空間において、本敷地の特性上、空虚な「凹み」となっています。その「凹み」が視認性や建物への採光など、都市/人々と繋がりがつらい要因となり、本来人々に安心感を与える存在の交番が都市に埋没しています。

特定テーマ②



都市の「凹み」を明るく照らす 特定テーマ①②

交番の「凹み」を都市/人々に開放し、開かれた公共空間とすることが重要と考えます。そこで、都市の「凹み」を地形と捉え、緩やかな奥行き感と木漏れ日を感じられる「渓谷」のような空間を提案します。「凹み」に視線や光を取り込み、身近に感じられる公共空間をつくります。



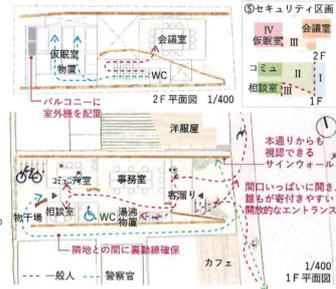
都市とシームレスに繋がる交番 特定テーマ①②

都市空間に繋がるワンルームの交番には、地形のような壁が外部から内部へ視覚的に連続し、開放的な親しみやすさを生み出します。一方で、必要に応じて視線を制御し、一般人と警察官の適切な距離感を保ちます。また、その壁は必要な機能/設備を包含した装置としても働きます。



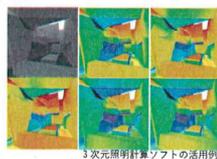
動線・セキュリティ計画 特定テーマ①

カウンター横の入口で人の出入りを集中管理します。警察官の動線については一般人と明確に分離します。また、使用頻度の低い部屋は折戸で仕切り、多目的に利用できる計画とします。



1日の空間の移ろいを感じられる執務スペース 特定テーマ①

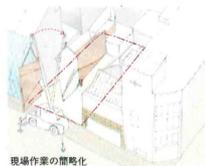
方位、時間を考慮しながら自然光を取り入れることで空間の「移ろい」を感じ、働く人の心象的な閉塞感を緩和します。自然光に加え、生体リズムを考慮したエコサーカディアン照明制御により省エネ化も図ります。



(2) 特に重視する設計上の配慮事項

仮設工事の簡素化、工程短縮

狭小な敷地における構法の選定は重要です。鉄骨造とし、ブレースと柱を工場等で組むなど、現場作業の削減方法を検討します。仕上についても2次製品を極力使用し、工程短縮に努めます。



様式6

□業務実施方針及び手法

業務の実施方針

交番という特殊な用途であるため施設担当者との綿密な対話を大切にし、ともにつくりあげる体制を整えます。本プロジェクトでは地域の親しみやすい交番という背反する側面の中で、一般利用者に対しては緩やかに、管理者に対しては明快に利用できる施設の実現を目指します。

取組体制

これまでに交流施設、集会所、ホール等の多岐にわたる設計をともに行ってきた専門事務所との協力体制で、地域の安全の拠点となる交番の実現に向けて取り組みます。各専門分野と一体の設計チームとして綿密な連携による密度の高い成果を可能とします。

設計チームの特徴

様々なプロジェクトでの経験を踏まえて各技術者を中心に多角的な視点で問題解決へ導きます。施設整備担当者や利用者との打ち合わせを密に行い、施設イメージや意見内容を共有しながら業務を遂行します。要望や変更柔軟に対応しフレキシブルで透明性の高い設計体制をつくります。

特に重視する設計上の配慮事項

地域の安全を守る場所でありつつセキュリティをはじめとした機能的な施設をつくるため丁寧な細やかな設計プロセスを進めていきます。また、意匠・構造・設備それぞれの専門性はもちろん、チームとしての連携を大切にしながら一体的な設計とします。様々なスケールの模型や図面を用い、複数案の検証により計画の妥当性を確保します。

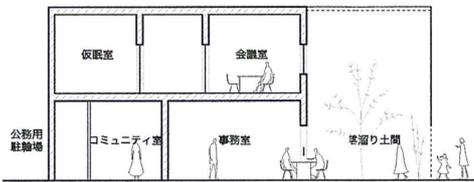
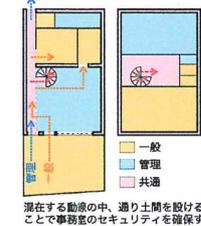
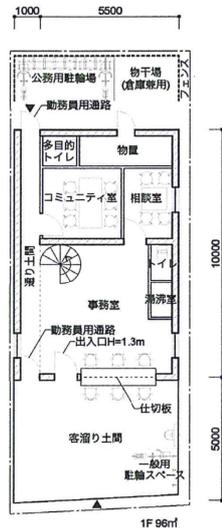
□評価テーマに対する提案

テーマ1 親しみやすさと力強さを備えた機能的な施設づくり

セキュリティと親しみやすさの二面性にこだわるために「通り土間」をバッファゾーンとして配置しました。一般の方々も利用する諸室があるため出入口が明快になるような配置計画としました。

テーマ2 周辺環境と調和した良好な景観の形成に資する魅力ある施設づくり

街並みの連続性を確保するため壁面位置を揃えます。一般用の外構設備は客溜りスペースを兼ね、入りやすく街に開かれたエントランスを目指します。夜間には街の灯となり24時間地域の安心できる施設を提案します。



HIROSHIMA Pilotis

交番での活動やまちの人たちを受け入れる「大きな屋根の下の自由な空間」と「力強い柱」を中心に、広島のみなさんの心のよりどころとなる生命力溢れた「大きな木々の下のような交番」を提案します。

業務実施方針及び手法等【様式6】

【業務の実施方針】

平和を願うまち広島にふさわしい生命力溢れる建築をつくる

広島を改めて訪れた私たちは、今も残る戦争の記憶と平和への強い願いの心を打たれ、ここに、平和を願うまち広島らしい生命力に溢れる建築をつくる必要があると実感しました。この交番を3つのコンセプトを軸に実現します。

- 1 交番を人々が集うプラットフォームと捉え、様々な活動と人の気配が感じられる温かさのある建築をつくります。
- 2 街に対して壁で隔てるのではなく、大きな屋根により「人々の拠り所」と「開かれた街並み」をつくります。
- 3 「力強い屋根・柱」と「更新可能なピロティ空間」により時代を超え100年後もたち続ける建築をつくります。

【取組体制】

共につくりまちに開くオープンなプロセス

警察関係者と地域住民とワークショップを行い共に考え、模型などで皆で共有できるかたちにして、そのプロセスを公開・共有することで、地域に根ざした交番をつくります。

【設計チームの特徴】

積極性・柔軟性のある経験豊富な専門チーム
公共施設の設計実績、公民共同のワークショップの実績が豊富です。警察署設計経験の豊富な構造設計者等、専門性に特化した確実・創造的な実施体制とします。

【特に重視する設計上の配慮事項】

竣工後もずっとまちと寄り添い続けます
私達は、公共施設の竣工後も、その地域を訪れ続け、ワークショップや地域の活動を続けています。竣工して終わりではない、まちと関わり続けるチームです。

(1) 親しみやすさと力強さを備えた機能的な施設づくり

「力強い柱」と「大きな屋根とその下の自由な空間」(A,B,C,D,E)

広島歴史・文化が持つ「強さ」とまちに溶け込む「弱さ」が共存した生命力溢れる交番

A 広島にしかない空間を継承し発展させます

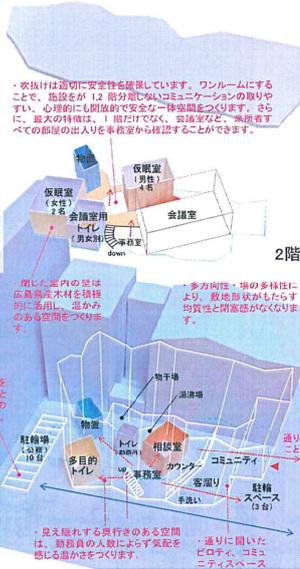
私たちは広島を歩き視察するうちに、「力強い柱」と大きな屋根とその下の自由な空間に広島にしかない居場所を感じました。これらを継承した交番をつくります。



私たちは、架構・物質・建築が持つ空間の力を信じています。

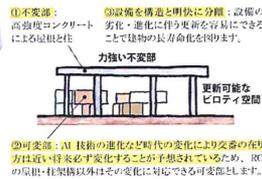
B 多様な居場所をもつシンプルで明快な平面計画・動線

- ・大きな屋根下のワンルームの空間は、まちに開かれた通り側から奥に行くほど勤務員専用空間が確保される安全で明快な配座とする。
- ・プライバシー性の高い諸室は明快な箱とし、その周りに多様な居場所が生まれるようにそれらを配置計画する。
- ・人の気配が感じられる空間構成により、女性や高齢者、子どもなども入りやすく親しみやすい環境をつくります。



C 100年後もたち続ける時を超える建築と仕組み

時を超えること、時と共に変容することが同在する建築こそ、変化の激しい現代に必要なと考えます。



D 安全性と経済性に配慮した構造計画

- ・大屋根とまちは、耐久性、耐水性、耐火性を考慮してRC造(一部鉄骨造)とし、大屋根の下の箱は、鉄骨造と一部RC造を適材適所で用い安全で経済的なスパン・部材寸法計画とします。
- ・自然エネルギーを取り込む呼吸する建築
- ・重力換気、自然通風の利用と共に、ワンルーム空間は居住域空調と個室の空調をカスケード利用します。
- ・不定形屋根と隣棟間から自然光を取り込み快適な室内環境を実現。

(2) 周辺環境と調和した良好な景観の形成に資する魅力ある施設づくり

大きな屋根がつくる「人々の拠り所」と「活動がまちに溢れる開かれた街並みの始まり」(C,F,G)

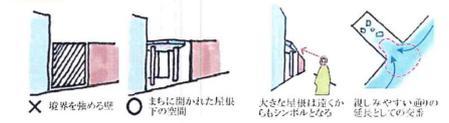


F 周辺環境との調和活動が溢みでる交番

- ・まちに対して壁で隔てるのではなく、屋根をかけて賑いと交流を生む通りの延長となる場・中間領域をつくります。
- ・屋根高さにより景観の連続性へ配慮します。

G 開放的な外観が生む親しみやすさ

- ・地域に開かれた明るい屋根下空間。
- ・通りからも認識しやすい特徴的な軒先。
- ・地域のイベントの場も商店街アーケードと連続した居場所としての調和が実現します。



様式 6

業務実施方針及び手法等

HIROSHIMA Kaleidoscope 多様な活動が「万華鏡」のように楽しく見える交番を提案します

1 業務の実施方針及び設計コンセプト

「マチ」との距離が近く感じる心地よい交番をつくりたい。街の通りから、警察官の凛々しい姿、広島市の明かり、瀬戸の風、そして、緑がかいま見え、親しみを感じる。暗い気持ちを脱ぎ払い、視覚的にも明るい交番を広島市の中心市街地につくりたい。

2 取組体制

柔軟な対話による設計を行うため、警察や行政とのヒアリングを設計に反映し、勤務者や来庁者の目線となった、使いやすくてわかりやすい交番を目指します。また、完成後の街の掲示板の活用方法などを事前にヒアリングをします。

3 設計チームの特徴

広島市中区が拠点の若手設計者であることを活かし、いつでも駆けつける行動力と対話によって柔軟な実施体制とします。協力業者は広島県型プロポーザルの実績があります。

4 特に重視する設計上の配慮事項

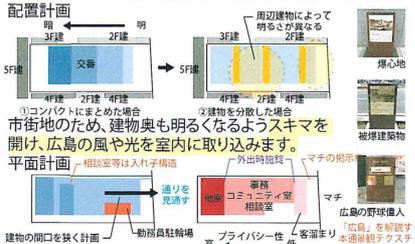
広島市の交番の中でも中心市街地に位置する本通交番は、回遊性のある機動動線、外部から勤務者の人数を瞬時に把握できない防犯構成など、勤務者を最優先した施設であることと同時に、街に緑や明かり、交番での活動がかいま見れる、親しみやすい施設であることが必要と考えます。



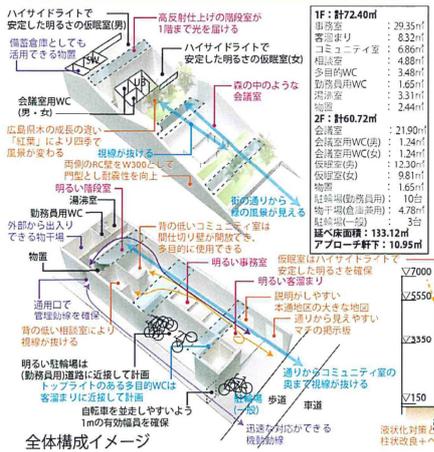
イメージ

外壁は合板型枠で木材の風合いをもちながら壁式RC造の強度を併せ持つ仕上げとします。万華鏡のように交番の中が警察や地域住民、広島市の光や瀬戸の風を受けることで、彩られ、新たな風景を広島につくりたい。

テーマ1 「親しみやすさと力強さを備えた機能的な施設づくり」について



入り子構造により来庁者が利用しやすく、認識しやすい明かな空間構成とします。相談業務などのプライバシー性の高い業務は間仕切り建具により、視線と音を遮断することで女性にも気軽にかつ安心して訪問や相談ができる諸室配置とします。また、3段階に分けたセキュリティにより、勤務員の安全な職務環境を整えます。道路面に「マチの掲示板」を設置し、広島を解説する景観テクスチャの継承し、視覚でつながりをつくりたい。



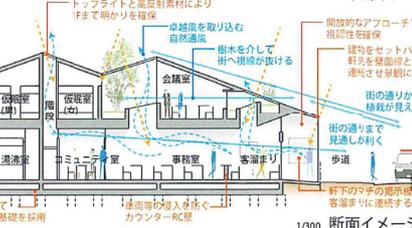
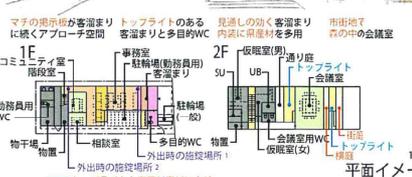
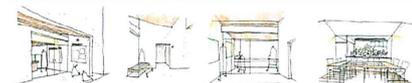
テーマ2 「周辺環境と調和した良好な景観の形成に資する魅力ある施設づくり」について

交番のアプローチ空間には警察と地域防災コミュニティの2つの掲示を行える「マチの掲示板」を計画します。また、出入口室内側の壁に大きな本通地区の地図を掲示し、特異的な地形をグラフィカルに魅せます。

断面計画
1枚のおおらかな屋根に3つの小さなスキマを開け光と風を取り込み、軒の出を街並みの壁面位置と合わせることで調和を図りながら、街に対して圧迫感の少ない佇まいとし、広島の新しい街並みの風景をつくりたい。

構造計画
主体構造をRC造とします。また、建物重量を抑えて地盤補強のコストを削減するために屋根を鉄骨造とします。

設備計画
瀬戸内の気候や陽の光など広島市の自然環境を、3つスキマが建築内部に引き込み、自然採光・自然通風を行います。スキマに植栽を植え日射遮蔽とし、交番と緑が共存した姿がそのまま外観となり、街の通りに面して新たな風景をつくりたい。



1/300 断面イメージ

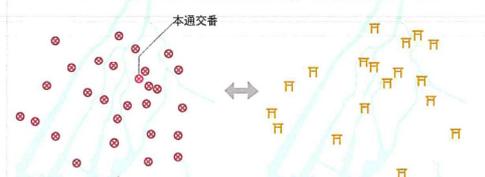
様式6 業務実施方針及び手法等

<業務の実施方針、特に重視する設計上の配慮事項>

安心感の大きさ、交番の包容力をかたちにする

街の駆け込み寺、訪ねてみたくなる交番

宗教への信仰心がそれほど強くない日本人にとって、日常的な心の拠り所として交番を捉えます。警察と市民との間に緊張関係が常にあるのではなく、警察が持つ絶対性に心理的安心と親しみを重ね、駆け込み寺(アジュール、聖域、避難場所)としての交番を提案します。街の喧騒のなかで一定割合で点在し心理的安定の源となる中立的な街の特異点としての姿であり、街をゆく市民が関心を寄せ、信頼を抱き、寺院のような日常性と象徴性を合わせ持つ交番のあり方です。(広島市中心部の交番・警察署の分布)(同、神社の分布)



上図)街に点在する特異点として、神社のような信仰施設よりも現代的かつ身近で、切実で即時的な不安や問題に対する解決が期待され、心の安定をもたらす拠点として交番を再定義します。本通交番庁舎は繁華街に建つ形本山の交番として位置づけ、そのシンボルとします。

<テーマ1「親しみやすさと力強さを備えた機能的な施設づくり」について>

日本の交番らしい機能性・合理性・環境づくり

町家を踏襲し、開きつつ守る配置計画

かつての交番は「閉じられた箱」で近代的で施設とした緊張感を放っていましたが、ここでは道路側から段階的に奥行きが生じる町家を踏襲した機能的な諸室配置とすることで、防犯性を保ちつつ、内部の様子を伺い知ることのできる訪れやすい門構えを構築します。幅広い間口と、ゆとりのある客溜りスペースを正面に設え、開放性を感じられるフロントラインを形成します。また奥行き方向へ「通り土間」を配し庁舎内部との緩衝帯とし、セキュリティやプライバシーの高い内部は「交番のなかの家」と位置づけ、奥に仕舞い込み、正面の事務室が守ります。女性用の室は最奥に配置し、居住性を高めます。交番を開くと同時に、機密部分を明確に示すことで、交番の存在意義やあり方について、市民の深い理解と関心を集めます。どっしりとした安定感、力強さのある形態

人間の寿命や世代を超え建ち続けられる耐久性の高い構造体とし、親しみやすさと、すがりつきたくなるような聖的な威厳を表します。

<テーマ2「周辺環境と調和した良好な景観の形成に資する魅力ある施設づくり」について>

視認性の高い外観・寺院のような象徴性

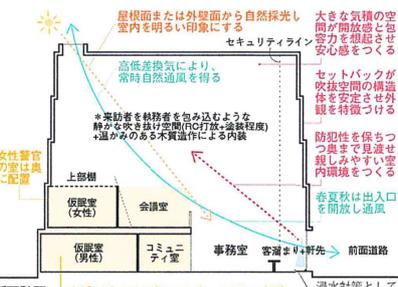
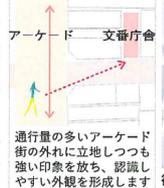
広島市のモニュメント(記念碑的建築物)に加わる

アーケード街から一步外れた立地で、道路から後退し周囲に埋没した交番の現状を見直し、道路面に外観を寄せて配置します。地面レベルでは広い間口が街のにぎわいを引き込み、全体としては堅牢で力強い外観を持ちます。替わりに隣接するビルから上方へ向かい、徐々に距離を生むよう外壁を後退させ、交番の外観を明瞭化し圧迫感を抑えつつ堂々とした外観を形成し視認性を強めます。執務機能を満たすだけでなく、市民の心の拠り所としての期待や関心に応える大きさ、安心を抱く存在感があることで、交番と市民を近づけるものと考えます。外観は明るい色を採用し、雑多な都市景観で存在を引き立たせます。このような姿の交番が街に点在(いずれ増殖も視野)し、象徴的な側面を持つことで、街づくりへつなげ、広島に豊富な歴史的建造物の文脈に参加し、広島市民の誇りを高めます。

<業務の取組体制、設計チームの特徴>

これからの警察、交番のあり方を考える

警察活動を理解しながら、広島らしさのある新しい交番と街、市民の関わりについて協議を進めます。その際、建築設計による効果を共有するため、明快な資料や模型を用いながら、住宅設計と同程度に詳細な検討を行い魅力ある建築づくりに繋がります。また、エンジニアと協働し、機能性能を保ちつつ、昨今問題となる建設コスト管理や、工程管理は早期から行い、確実な業務進行を徹底します。



様式6 業務実施方針及び手法等

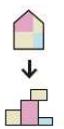


明るい気配をもたらす交番

特定の人のためでない、強い公共性を持つ交番は、千差万別である人々の好み・警察への思いに依拠しない建築が求められると考えます。

敷地そのものを明るくします。
人が本能的に感じる明るい気配、風通しの良さ、そういった普遍的な印象の良さを敷地にもたらしめます。三方壁に囲われた間口の狭い敷地の骨格自体を変えていきます。

交番は、小ぶりの建築の中に明確な要望をもつ多くの機能を持っています。それらを建築の外形を決めて陣取りに配置するのではなく、それぞれの要望に従い積み上げます。



全体性のない建築は、隙間から明るい光を敷地におとし、密集した商業地域の中心に現れる明るい場所が、地域と交番の距離を近づけます。

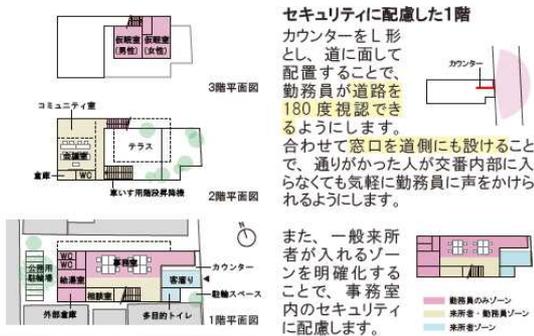
業務の実施方針・取組体制

機能の特殊性に配慮し、既存の交番の使われ方をヒアリングするなど、ユーザーである警察の方々との対話を重視します。その上で、防犯ボランティアの意見をヒアリングするなど、地域との連携を図ったこれからの交番の在り方についても警察の方々とともに積極的に検討します。設計開始直後に全体工程を作成、課題を抽出し、着実、迅速に設計を進めます。

設計チームの特徴

私たちのチームは柔軟な発想と対応力に富み、各分野の知見と最新の技術を用いて比較検討を行いながら、設計を進めます。意匠・構造設計者は敷地に隣接する公共交通施設的设计・監理の協働経験があります。設備設計者は、設計のみならず建築設備の最適運用のコンサルティングも行う企業の代表です。

テーマ1「親しみやすさと力強さを備えた機能的な施設づくり」



セキュリティに配慮した1階

カウンターをL形とし、道に面して配置することで、勤務員が道路を180度視認できるようにします。合わせて窓口を道側にも設けることで、通りがかった人が交番内部に入らなくても気軽に勤務員に声をかけられるようにします。

また、一般来所者が入れるゾーンを明確化することで、事務室内のセキュリティに配慮します。

1階に光を取り込むための3階

3面建物に囲まれた敷地の中で、建物をずらしながら積層させることで、1階もトップライトによって自然光を取り込むことができ、勤務員、来所者双方にとって快適な空間とします。多くの外部空間を持つ立体的な構成は、各階に自然光や風通しの良さをもたらす一方、吹き抜けは設けない、投げ込み等不測の事態を抑制する構成です。また、階を分けることで、来所者が利用する会議室と仮眠室のセキュリティ区分を明確化します。

遣材適所の構造計画

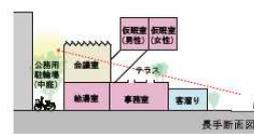
鉄骨造のラーメン構造とすることで、ずれながら積層する3層の構造を無理なく実現します。さらに上下階の柱位置をつなぐように方杖を配置することで、柱の曲げ応力を軽減し、経済性に配慮した設計とします。



テーマ2「周辺環境と調和した良好な景観の形成に資する魅力ある施設づくり」

敷地の奥を明るくする

公務用駐輪場を敷地奥に配置することで、密集した街区の中に中庭状の外部空間をつくり出します。中庭に面するコミュニティ室・会議室はガラス張りとし、道路側から見たときに建物越しに中庭が明るく浮かび上がる構成とします。



街を見守る窓口

街から見たとき、交番にとって最も重要なのは警察官が立つカウンター（窓口）です。平屋の窓口部分を道に面して設けることで、街並みの連続性を保ちつつ、圧迫感を与えずに街を見守るたたずまいとします。窓口・客溜りは三方に空地



本通り商店街から平屋の窓口が見える。



立体的な構成によるテラスの光の当たりが、窓口・客溜り越しに見える。